シリーズ NO.20

子育てコラム
ホッと安心できる保健室をめざして
～中学校の保健室から～

山武市立山武中学校　養護教諭　押尾　泰代

私たち養護教諭は、子供たちが心身共に健康に学校生活を送ることを願い、職務に専念しています。私が、養護教諭として、中学校に初めて勤務したのは今から20年くらい前になります。その頃は、包帯を上手に巻くこともできず、「へたくそ」と怒られることもありました。また、励ますつもりで言った「だいじょうぶ」という言葉がうまく伝わらず、「先生が大丈夫と言ったのに」と責められたこともあります。しかし、こんな私も、この20年間で様々な経験を積み、子供たちの健康に関して、いくつかの考えを持つようになりました。

私たちが、子供たちの体を健康に保つための大切な仕事として「健康診断」と「救急処置」があります。ところが、最近「健康診断」の中で「視力の低下」が気になります。おそらく、ゲーム機や携帯電話の使用で目を酷使していることが原因ではないかと考えられるのですが、生活習慣を改善させるためには家庭教育がとても大切になってくると思います。学校で保健指導し家庭に情報提供していくことで家庭と連携を図っていきたいと思います。そして「救急処置」、中学生になると体育や部活動のけが、また悪ふざけによるけがと多種多様になってきます。身体も大きくなってくるため、大けがにつながることもあります。病院への搬送や救急処置で悩むことは多々ありますが、保護者の方への連絡を密にして慎重に対応するように心がけています。

「健康診断」や「救急処置」は、目に見える状況に対する活動なのですが、それに対して「心」は目に見えず、たいへん難しい問題を含んでいます。中学生は、個人差はあるにせよ、男女共に二次性徴をむかえます。身体は大人へと近づくのですが、それに伴っての心の成長が追いつかないことがあります。姿形は大人に見えても中身は子ども、私たちはそんな中学生をきちんとした大人に成長してほしいと願い、良いことは良い、だめなことはだめ、と教えます。でも、悪いとわかっていながらできなかったり、友達との関係がうまくいかなくなったり、心の葛藤に苦しむ子はたくさんいます。保健室はそんな子がホッと気持ちを落ち着かせる場所になりたいと思います。

テレビで「ホッと安心…」をキャッチフレーズにするガソリンスタンドのＣＭが流れています。私たちは事故を起こさないように緊張して車を運転し、そして、スタンドに寄ります。ガソリンを満タンにしてホッと一息入れるように、保健室で心のエネルギーを満タンにして教室に戻っていってほしい。保健室は、子供にとって「ホッと安心…」できる場所でありたいと思います。そのために私が心がけていることがあります。それは子供が「先生、暇だね～」と言いたくなるように振る舞うことです。先生が暇そうにしているなんておかしなことのように思えるでしょうが、忙しくてバタバタしているときに限ってちょっとした変化を見落としてしまいます。落ち着いて子供たちを迎えるためにも、子供の前では暇人であろうと心がけています。「先生、保健室って落ち着く、この空気好き」と言ってくれる生徒のために…

余談ですが、この記事のお話をいただいたとき、保健室掃除の子に「何の話を書いたらいいかな。」と話しました。そうしたら「私たちの話を書いて！」と言われました。ここでのお話は、毎日の掃除の時間を楽しみに来てくれる彼女たちのことを考えながら書きました。

子育て相談受付中

子育てで悩んだ時、困った時、不安になった時など子育てに関することならどんなことでも気軽にご相談ください。

相談電話　☎(80)1456

受付時間　月・水・木・金曜日
午前9時～午後4時半
（水曜の午後・祝祭日を除く）

教育委員会生涯学習課

☎／市外局番の記載のないものは『0475』です